

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和8年 3月 25日

公表: 令和8年 3月 30日

事業所名 サンたなお放課後等デイサービス

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8			利用児童の特性に合わせた療育を目標にし、最低限の活動ができるスペースを確保しています。また、プライバシーを守るため、アコーディオンカーテンを設置したり、オープンにしたりして活用しています。
	2	職員の配置数は適切である	7	1		放課後等デイサービスの経験者などの職員を配置し、欠員が出ないように補充しています。利用者の予定人数によって有給を取ってもらっています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8			車いすを利用している方でも入りやすいように、玄関がスロープになっており、段差がないなどバリアフリーになっています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1		職員全員で話し合いをして、個別支援計画を策定し、目標設定と振り返りを実施しています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	2		保護者の意見を重視しています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	1		ホームページにて公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	7		第三者委員会は設置していますが、実際に評価を受けるまでにはいたっていません。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1		常勤職員が中心に研修に参加しているが、伝達講習で全職員に伝達しています。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	1		児童発達支援管理責任者を中心に職員で話し合い、偏った計画にならないようにしています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	2		HUGシステムでのアセスメントツールを活用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	2		職員全員で活動プログラムの立案を作成しています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	2		集団活動は偏らないようにしています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	2		公園に行ったり、カラオケ、施設見学、施設を利用する等といった行事を計画しています。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	2		個別支援計画書には、それぞれのニーズに合わせて、個別活動・集団活動の両方の支援内容を取り入れるようにしています。必要に応じて絵カードの使用等も検討しています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2		朝礼、職員間のグループラインを活用し、リアルタイムで情報共有しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2		職員間のグループラインを活用し、リアルタイムで情報共有し、意見交換もできるようにしています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	2		HUGシステムで毎日記録して、利用者家族に公表し、職員も随時確認し共有しています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	2		定期的にモニタリングし、職員の会議で意見を出し合って個別支援計画を作成しています。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	2		5領域を踏まえた個別支援計画の作成や支援計画に基づいた方法を活用しています。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	2	担当者会議に出る前に職員で会議をして情報共有し、他の職員の意見を聞いて取りまとめています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8		毎月の児童の迎えの時間を学校に提出して事前にすり合わせています。遠足等で下校時間の変動がある場合の迎えの時間変更等は学校からの連絡、職員への連絡はすぐできるように対応しています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			8 現在、医療的なケアが必要なお子様の利用はありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	2	保護者の同意を得た上で児童発達支援事業所、保育所、相談支援員に情報をいただいで個別支援計画を作成しています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	8		放課後等デイサービスを卒業前にB型事業所へ情報提供しています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	2	児童発達支援センターの提案された研修に出ています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	6	2	作品展に参加したり、活動を共にする機会はあると思います。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	2	地域自立支援協議会へ参加し、情報交換しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	1	HUGシステムの毎日の記録を保護者に送信し、双方のやりとりもリアルタイムでできるようになっています。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	3	保護者の関わり方で、ほめる事を心がけるように声掛けをしています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7	1	新規利用者には時間をかけ、契約書、重要事項説明書を通じて説明し同意をいただいています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	2	HUGの連絡の中で随時相談できるようにしています。場合によっては訪問して個別対応しています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	2	年に2回の事業所が開催するお祭りで保護者同士交流し話しやすい環境を提供しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8		保護者からの苦情は随時HUGの連絡を通してできるようにしています。職員もHUGの内容を共有し、早く保護者に対応して全職員が改善できるようにしています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7	1	HUGにて活動やイベントについて公開し発信はしています。
	35	個人情報に十分注意している	8		職員全員に個人情報の取り扱いが周知できるよう説明と同意を得ています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	障害特性に応じたコミュニケーション方法を取り入れていません。また、保護者との情報伝達は電話だけでなく、HUGという電子システムでのやり取りもしています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	2	年2回の事業所が開催するお祭りの地域の住民も参加しやすいように声をかけています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	1	職員は研修を受け、受けた職員による伝達講習により、全職員が緊急時対応、防犯、感染症を周知し、マニュアルを見直し改正しています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	1	半年に1回避難訓練、防災訓練を実施しています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	2	虐待研修に職員が参加し、参加した職員が伝達講習をしています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	2	保護者には全員説明、同意を書面でしています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	食べる時は、個別に離れた場所を提供しています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	2	ケガや事故などの危険性がありそうな場面では、共有し再発防止に努めています。